

「530運動」の提唱と展開

「自分のゴミは自分で持ち帰る」のは登山のマナー

1969(S44)年10月、弓張山系に豊橋自然歩道推進協議会と当会が中心となって、豊橋自然歩道が整備され、多くのハイカーが訪れるようになった。しかし、利用されて喜ばしい反面、山道に捨てられている空缶などのゴミは目にあまるものがあった。自然保護と環境面から清掃が行なわれたが、片づけてもまた捨てられる悪循環の繰り返しであった。

自然をこよなく愛していた夏目久男(当時会長)は、1975(S50)年5月登山の経験から、「自分のゴミは自分で持ち帰る」のは登山のマナーであり、一般社会にも当てはまると考えた。そして、美しい街づくりを目指

すため、新しいイメージの運動が必要と考え、「530運動」の推進を市に提唱した。

同年7月16日、この運動に行政側も賛同と強い熱意を示し、官民一体の「530運動推進連絡会」が設立された。夏目久男も「530運動推進連絡会」の副会長となって活動した。

同年8月31日、提唱団体の当会は早速、「自分のゴミは自分で持ち帰ろう」を合い言葉に、立看板設置や清掃奉仕作業を実施した。



1975年 530運動の看板設置

運動の輪は豊橋市から全国へ

「530運動」は清掃活動としてゴミを拾うだけでなく、捨てない心を養う啓蒙活動として展開された。更に全市一斉の「530運動」に発展し、企業、老人会、婦人会、青年団などの団体や、小中学校及び高等学校も加わり、連帯の輪は市全体に定着していった。その後、この活動の輪は全国へと広がり、1979(S54)年3月には全国組織の「530運動総連合」が結成されるまでになった。



1980年 記念碑と夏目久男